

12. 葬斎センターの設置及び管理運営に関すること

経緯

葬斎センターは昭和 55 年から 10 町村で構成され、現在の施設「緑聖苑」は平成 6 年 6 月に竣工して今に至っている。

- (1) 構成町村 木曽福島町 上松町 南木曽町 檜川村 木祖村 日義村 開田村 三岳村 王滝村 大桑村
- (2) 施設 ・火葬炉 3基
・遺体運搬業務 委託

現状と課題

現施設は、稼働から 10 年が経過しているが、定期的な保守点検や補修工事を実施していることから順調に稼働している。

今後の方針

今後も適切な点検整備及び補修工事を計画的に実施していくことにより、施設の延命を図る。

施策

定期的な点検整備及び補修工事の実施

葬斎センター火葬件数

町村	火葬件数			
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
木曽福島町	86	77	99	87
上松町	71	70	67	97
南木曽町	53	45	54	56
檜川村	37	31	35	36
木祖村	45	40	37	46
日義村	38	19	27	29
開田村	23	20	29	29
三岳村	29	21	31	25
王滝村	13	11	5	14
大桑村	54	62	56	51
山口村				
組織町村外	18	15	25	22
合計	467	411	465	492

13 - 1 ごみ処理施設の設置及び管理運営に関すること 北部クリーンセンター

経緯

- (1) 構成町村 木曽福島町、榑川村、木祖村、日義村、開田村、三岳村、王滝村
- (2) 施設
 - ・可燃ごみ処理施設(平成2年3月稼働 処理能力50t/8h)
 - ダイオキシン類対策工事 平成12～14年度(処理能力40t/8h)
 - ・不燃ごみ処理施設(平成5年3月稼働 処理能力15t/5h)
 - ・埋立て処分場

現状と課題

1. 収集・運搬について

業者に委託してごみの収集運搬を行っている。

2. 可燃ごみ焼却施設

ペットボトル、古紙類、ダンボール等のリサイクルが定着しつつあることなどもあり、平成13年度以降のごみ量は減少傾向にあるが、今後もさらに減量化を促進する必要がある。

また、ごみ質の変化(高カロリー化等)にも留意しつつ、施設の維持管理を行うことが肝要である。

2. 不燃ごみ処理施設

ガラスビン等のリサイクル収集開始により、平成13年度以降の処理量は減少傾向にある。

3. 埋立て処分場

ガラスや陶磁器の破砕物、瓦礫類等の埋め立てを主に行っているが、処分場の延命を図るため今後も管理の充実を検討する必要がある。

今後の方針

ごみの減量化をさらに促進するためリサイクル・リユースの啓発を推進し、維持管理体制の強化を図る。

施策

- ごみ収集業務の効率化
- 施設管理
- ・維持管理体制の強化

13 - 2 南部クリーンセンター

経緯

- (1) 構成町村 平成 11 年 4 月から上松町、南木曽町、大桑村
- (2) 施設 昭和 58 年 4 月稼動 (処理能力 13 t / 日)
ダイオキシン類対策工事 平成 11 ~ 12 年度

現状と課題

- (1) 収集・運搬について
各町村がごみの収集運搬を行なっている。
- (2) 可燃ごみ焼却施設
平成 11 年度以降のごみ量が増加している。また、生活様式の向上に伴うごみの高カロリー化による影響と、運転開始後 20 年を経過し施設の老朽化が進んでいることから、処理能力が減少しているため、施設への負荷が増大している。

今後の方針

施設・設備の老朽化に対応するため、今後計画的な点検・修理と維持管理を進める。

施策

- 施設管理
- ・維持、管理体制の強化
 - ・旧施設の処分

可燃ごみ・不燃ごみ年度別集計 (北部・南部含む)

町村	可燃ゴミ集計(t)				不燃ゴミ集計(t)			
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
木曽福島町	3,884	3,868	3,327	3,307	559	566	388	388
上松町	1,508	1,549	1,628	1,651				
南木曽町	1,227	1,223	1,298	1,312				
檜川村	1,265	1,193	1,031	1,068	165	164	115	101
木祖村	937	957	882	814	196	195	164	150
日義村	932	954	973	976	165	161	123	130
開田村	489	611	508	496	111	133	99	99
三岳村	486	474	454	470	127	121	96	87
王滝村	581	561	502	463	96	82	62	65
大桑村	1,014	1,043	1,130	1,135				
山口村								
北部合計	8,574	8,618	7,677	7,594	1,419	1,422	1,047	1,020
南部合計	3,749	3,815	4,056	4,098	0	0	0	0
合計	12,323	12,433	11,733	11,692	1,419	1,422	1,047	1,020

13 - 3 ごみ焼却処理施設の統合（新設炉建設）について

経緯

新統合炉の整備については、平成9年7月に木曽地域広域行政推進会議が設置され、木曽地域全体のごみ処理対策について調査検討を重ね、平成10年9月に木曽地域ごみ処理広域化計画が策定された。この広域化計画では、汚泥の受け入れも含め、平成22年稼働を目標に新焼却施設の整備方針が出されている。

現状と課題

（1）ダイオキシン類対策

南部クリーンセンター 平成11～12年度に整備

北部クリーンセンター 平成12～14年度に整備

（2）ごみ処理の現況

平成14年度の可燃ごみ実績は、平成11年度との比較で、南部クリーンセンターが9.3%の増、北部クリーンセンターが11.4%の減となっており、合計で5%の減にとどまっている。一層の減量化が必要である。

今後の方針

新統合炉の整備に当たっては、極力その処理規模を大きくしないようにするためのごみ減量対策が必要である。また、現在の新技術として溶融施設の設置が増える傾向にあるが、ごみの量と質の動向を十分みきわめる必要がある。

更に、施設が1個所に整備される場合の問題点と施設整備に係る財源を含めた建設計画が必要となる。

新処理施設の整備時期については、当初計画の平成22年度が基本であるが今後、現在の処理施設の状況等について精密調査の上、検討を進める。

施策

処理規模の削減と資源ごみの活用

- ・ 容器包装類、紙類及び布類等のリサイクル推進
- ・ 生ごみ（有機性廃棄物）の有効活用の推進

中間処理方法の検討

- ・ ごみ質分析と処理技術の調査
- ・ 焼却灰の資源利用について調査

建設計画の検討

14. 循環型地域づくりの推進に関すること

経緯

上松町・南木曽町・大桑村に関しては連合発足以前から容器包装を主にリサイクルが実施されている。

木曽福島町・榑川村・木祖村・日義村・開田村・三岳村・王滝村に関しては平成12年4月にガラスびん、ペットボトルのリサイクル収集が開始され平成13年4月にダンボール、古紙類のリサイクル収集開始された。(木祖村他で以前より集団回収を実施)

平成14年4月にはリサイクル品の持込が開始(毎日曜日)され約1300件の利用があった。平成15年4月には循環型地域づくり推進懇談会を設置し木曽のリサイクルモデル等について検討している。また、7月からはリユース事業を開始している。

現状と課題

分別収集の意義は、どれだけ正しく分別されるかがリサイクルの質を左右し、その後どれだけ回収されるかというリサイクル原材料の量の安定性が重要となってくる。きちんと分ければ資源に活用できることを踏まえて、現代社会への提言である廃棄物を無くす“ゼロ・エミッション”を目指して、循環型社会を構築していくことが求められている。

リサイクルは、資源循環のシステムを円滑に運営することが重要であるので、地域住民、町村及び広域連合との連携を更に図っていく必要がある。また、事業者においてもリサイクルへの努力と協力が求められる。

今後の方針

- リユース、リデュースによりごみ減量を計る
- 有機性資源としての活用
- リサイクル原材料の回収を高める

リサイクル品の収集方法は、主に町村それぞれに設置するステーションを巡回して集められている。今後もこのシステムが中心となるが、更に直接持ち込みできる方法についての取り組み強化を推進していく。また、ごみ処理に対する応分の負担とリサイクルの活動や事業への支援について推進を図る。

施策

資源ごみリサイクルの推進

- ・リユース、リデュース、リサイクル(3R)の啓発
- リサイクル施設の機能充実
- ・リサイクル広場の活用
- ・事業系のごみ利用の拡大
- 循環型地域づくり懇談会の運営
- コンポスト製品の利用拡大

3R	リユース	再使用
	リデュース	減量
	リサイクル	原料化

リサイクル実績表

町村	リサイクル(t) (構成町村データより)			
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
木曽福島町		22	192	258
上松町	336	425	368	426
南木曽町	126	390	368	430
榑川村		8	127	149
木祖村		10	161	174
日義村		10	39	91
開田村		2	14	33
三岳村		2	10	21
王滝村		4	19	61
大桑村	48	194	223	257
山口村				
合計	510	1,067	1,521	1,900

このほか集団回収等によるリサイクルも推進されています。

15. し尿処理施設の設置及び管理運営に関すること

経緯

- (1) 構成町村 木曽福島町、上松町、南木曽町、檜川村、木祖村、日義村、開田村、三岳村、王滝村、大桑村
- (2) 処理能力 80kl/日
- (3) 処理方式 高負荷脱窒素処理方式 + 高度処理

現状と課題

平成14年度処理量は、27,707kl(し尿19,769kl、浄化槽汚泥7,938kl)である。1日当たりの処理量は、75.9klとなっている。放流水質は基準値20ppm以下となっており安定している。

し尿処理量については、今後公共下水道及び農業集落排水施設等の普及により、さらに減少し、汚泥処理量は増加する傾向にある。また、施設の維持管理をしていくための定期的な点検整備や補修工事を実施しながら延命を計っていくことが必要であり、設備機器についても計画的な更新が必要である。

環境センターから排出される脱水汚泥は、処分委託先の業者においてコンポスト化されている。

今後の方針

施設整備

機器類等の点検整備や補修工事について年次計画を立て、処理に支障のない時期を選定し実施していくことにより施設の延命を計る。

汚泥処分

脱水汚泥の処分については、循環型地域づくりの観点からコンポスト化することがベストと考えられるので、有効活用を継続して進めて行く。

施設管理

し尿等の減量が見込まれる一方、隣接設置の汚泥集約センターの施設管理が15年12月から業務となったため、効率的な運営を図る必要がある。

環境センターし尿・汚泥総処理実績

し尿・汚泥総処理量 (KL)				
町村	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
木曽福島町	6,804	6,362	5,817	5,165
上松町	5,058	4,906	4,949	5,008
南木曽町	3,832	3,731	3,434	3,499
檜川村	2,889	2,856	2,843	2,397
木祖村	2,743	2,676	2,735	2,461
日義村	2,833	2,389	2,060	1,758
開田村	1,909	1,754	1,559	1,847
三岳村	1,363	1,337	1,309	1,145
王滝村	1,137	871	793	813
大桑村	3,735	3,665	3,698	3,614
山口村				
合計	32,303	30,547	29,197	27,707

施策

施設・設備の維持管理

- ・ 機器類の点検及び修繕工事の実施
- ・ 各貯留槽の補修工事の実施
- ・ 機器類を計画的に更新

汚泥の資源化にかかる有効活用

環境センターと汚泥集約センター

との施設管理の連携

16．公共下水道汚泥集約処理施設の設置及び管理運営に関すること

経緯

公共下水道汚泥集約処理施設は、平成 10 年から 12 年度まで木曽広域連合広域汚泥処理全体計画が作成され、平成 13 年度から 15 年度にかけて処理施設の建設が図られた。

そして、平成 15 年 12 月に施設の稼働を開始した。

現状と課題

今後の課題としては、汚泥量の増加に伴う施設管理体制の整備、汚泥処分と資源化が上げられる。

今後の方針

郡内 7 町村の下水道浄化センター（9 施設）から発生する汚泥を集約し、脱水減量化する。処理量は平成 20 年の目標で年間 約 30,000m³となっている。

施設の管理運営については、効率的な体制の整備に配慮する。また、汚泥の処分方法については、資源循環型となるよう計画するとともに、圏域内における処理処分をめざしていく必要がある。

施策

施設管理

- ・維持、管理を効率的に行う
- 汚泥の資源化の推進